



最善を尽くして学校説明会 ～未来の自分に希望をつないで～



コロナ感染症第6波の急速な感染拡大で開催が危ぶまれた今回の説明会は、「県立学校運営ガイドライン」に則り感染症対策を徹底したうえで1月14日(金)に実施しました。

15の中学校から生徒29名が集まり、熱心に授業見学(教室に入らず廊下より見学)や、格技室で説明を聞いていました。

さて、説明会終了後、一人の中学生が母親と一緒に私のところに来ました。彼は目を輝かせ、こう私に話してくれたのです。

『僕は前回の説明会で「これからの中学生活では少しでも多く授業に出て、そしてみんなと一緒に勉強してみましよう」と、蓼高の先生に言われたことを実践し、できるようになりました。』

私が思わず母親に視線を移すと、お母さんの目に涙が光っていました。この感動は、オンライン形式では生まれられないでしょう。最善を尽くし説明会を開催して本当によかったと感じた経験でした。



参加生徒の感想

- ・授業参加について、とても分かりやすく先生と生徒との距離が近くて、とてもいい高校でした。
- ・蓼科高校の授業の雰囲気があったし、先生方の教え方がすごく分かりやすくてすごく楽しそう。
- ・蓼科高校は未来のためにあると思います。
- ・蓼科高校に入りたいという思いが上がりました。
- ・教頭先生に分かりやすく説明いただけたことで、蓼高をより詳しく知ることができました。(保護者)

困ったお話(その56) (煩惱スノーシュー)

人間生きている以上は苦しみの連続だ。仏教によると、人生における苦(思い通りにならないこと)の原因である煩惱の根源は、「生・病・老・死」などからくるのであり、それらを受け入れ克服することが大切らしい。

さて、小川村に戻る週末、私の苦しみは「雪」だ。帰るたびになぜか大雪の後で、妻に雪かきを命じられる。まずは雪を受け入れ克服する修行が必要だ。なので私はスキー



いざ山頂へ!



立ちはだかる雪の壁

で修行(お昼はカツカレー)をしようとしたが、いけない。これは苦しみどころか楽しみだ(雪見酒の修行も考えた)。だけど雪かきは嫌なので、ここは中間をとって(?), スノーシューで修行しようと思った。

目指すは村の最高峰、飯縄山(1,203m)だ。山頂には稲丘神社があり、参道兼登山道を登っていった。ふもとの斜度は10度前後だが、午後なので雪が緩み、スノーシューを履いていても膝まで雪がめり込む。心臓バクバク状態だ。さらに上に行くにしたがって斜度が20度ぐらいになってきた。スキーのゲレンデだったら中級者コースだ。くそ、だったらこうだ! 私は道を外れ、頭上の頂をめざし急斜面を登り始めた。あえて苦難に飛び込むことが修行だ。こうしてランナーズハイ状態で山頂につき、神社に手を合わせ下山した。雪を克服した満足感いっぱい帰宅したところ、雪かきを命じられた。いつも以上に苦しみを感じた。



山頂の稲丘神社に到達!

妻の命令を克服する修行が先だった。